

②エレベーター仕掛け

カケアグリやシモリ回りなどの狙い目となるポイントにオモリだけをつけた仕掛けを投入し、後から生きアジをセットしたハリス仕掛けを道糸に通して送り込むスタイルです。キャストや着水時にかかるアジへの負担がなくなるぶん生きのよい状態でアピールできるうえ、重いオモリを使えることから急流にも対応できるという特徴があります

ハリス：フロロ3～5号1^{1/2}前後

障害物や地形の変化に富んだ底層を釣るため耐摩耗性に優れたフロロが最適です。長いほどアジが自由に泳げるためアピール度が高くなりますが、そのぶん仕掛けのカラミが多くなりますし、隣人とのオマツリも懸念されるため1^{1/2}以上の長さはおすすめしません。

ハリ：伊勢尼8～10号など

底層に潜むあらゆるフィッシュイーターがターゲットになるため強度を備えた万能タイプの伊勢尼がおすすめです。サイズの考え方、孫バリのシステムはウキ釣り仕掛けと同様です。

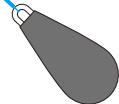
タナを制約することも可能!!

ウキ止めゴムやウキ止め糸と、通過防止用の大きめのシモリ玉などを用いることでアジが泳ぐタナを制約することができます。ヒラメやアコウなどの根魚以外にハマチなどの青物の回遊があるときはあらかじめセットしておき、状況に応じてウキ止めを上下させてアジのタナをかかるとよいでしょう。

ハリスとスナップサルカンはクリンチノットで接続



道糸とオモリはクリンチノットで接続



ナス型や六角オモリ10～25号程度

潮流の速さや水深を考慮し、仕掛けをポイントに留められる重さを選択しましょう。一般的な波止回りでは10～15号程度で対応できますが、流れが速いところでは25号ぐらいまで用意したいところです。

道糸：ナイロン3～4号

しなやかで扱いやすいナイロンの3～4号を使うのが一般的です。

スナップサルカン5～8号

餌の小魚を上下の遊動式にするためにスナップサルカンを用います。号数は大物も想定して強度のある5～8号を選ぶのが一般的です。スナップ側ではなくサルカン側にハリスを結びます。

中型スピニングリール、小型両軸リール

キャストすることも想定すると巻き取りのトルクの強さもある中型のスピニングタイプを選択するのが一般的ですが、竿下を狙うならスピニングタイプ以上に巻き上げトルクがある両軸リールを使うのもアリです。いずれも置き竿時はドラグを緩めた状態でアタリを待ちましょう（ドラグを締めているとアタリがでたときに竿が海中に引き込まれる恐れがあります。対策として竿尻に尻手ロープをつけておきましょう）。

投げ竿20～25号4号前後、かためのシーバスタード、磯竿3～4号5号前後

ケーソンの継ぎ目や基礎石など竿下回りの地形変化を中心に探るのであれば3～4号の磯竿、ルアーロッドをはじめとするかためのコンパクトロッドでも問題ありませんが、少し投げることも考慮するなら投げ竿20～25号を使うのがよいでしょう。

